

目覚ましい普及を遂げている Web 版データベースや電子ジャーナルに比べると、認知度が低いとされている電子ブックを取り上げます。電子ブックとは、書籍の内容をデジタル化してインターネット上で全文が閲覧できるようにしたもので、eBook、オンラインブックとも呼ばれています。

電子ブックの特長として、絶版がなく、動画や音声も含まれていること、本文も検索対象となるので迅速に目的とする項目に辿り着けること、テキストのコピー＆ペーストができること、関連する情報へのリンクが活用できることなどが挙げられます。

日本語のタイトルはまだ数少ない中で、本学で契約している丸善の電子ブック『理科年表プレミアム®』と『化学書資料館』を紹介します。『理科年表プレミアム®』は、(<https://www.rikanenpyo.jp/member/?module=Member&action=Login>) 国立天文台が編纂する自然科学関係データブックの定番「理科年表」の法人向け Web 版で、大正 14 年の創刊から平成 20 年版までのデータが収録されています。暦部、天文部、気象部、物理 / 化学部、地学部、生物部、環境部の 7 部門で構成され、約 15,000 項目の図表データが閲覧可能です。豊富な内容により、過去 81 年の国民の祝日の変遷を調べたり、古墳時代からの主な地震を一覧したりと多岐に渡ったユニークな検索が、目次、索引、全文の 3 方面からできるようになっています。すべての表データは CSV 形式でダウンロードできますので、保存したデータの活用も容易です。

『化学書資料館』(<https://www.chem-reference.com/>)は、日本化学会の編集による「実験化学講座 初版～4 版」「化学便覧基礎編 改訂 5 版」「化学便覧応用化学編 第 5 版・6 版」「標準化学用語辞典 第 2 版」など計 132 冊の情報を一括して検索できます。化学分野の日本語参考図書をパソコン上で総合的に検索し、閲覧することのできる画期的なツールで、用語の意味を辞書で確認しながら、化合物の性質や実験方法を調べるといった作業がスムーズに行なえます。今後の方針として、「信頼性の高い、論文・資料・レポート作成の出典に安心して記すことができる化学書を掲載していく」と明記していますので、特に学生の利用推進を図りたいサイトのひとつです。

\*Elsevier 社 4/17(木)、Springer 社 4/22(火)に電子ジャーナルを中心とした講習会を実施します。この機会に是非ご参加ください。

### \*\*\*図書館トリビア\*\*\*

フィンランド南部の図書館から 100 年以上にわたって貸し出されていた本が、返却されたそうです。無事に返却された本は、1902 年に出版された宗教月刊誌を綴じた大型本で、いつ誰が借りたかという貸出記録は残っていなかったそうです。(2008.3.12 共同通信)

本学の図書館でも 3 月に蔵書点検を行い、行方不明となった蔵書が現在 400 冊にも上っております。良識ある多くの利用者は、所定の手続きをとり借用・更新を行ないませんが、時には貸出記録もなく、放置本として学内から発見されることもあります。当館でも行方不明になった本が 1 冊でも発見されることを願っております。恐れ入りますが、「ラベル」や「図書館印」のついた本を発見された方は、図書館カウンターまでお願いします。

メールマガジンに関する意見・質問は、運用係 [circ2303@lib.iwate-med.ac.jp](mailto:circ2303@lib.iwate-med.ac.jp) まで。

<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館